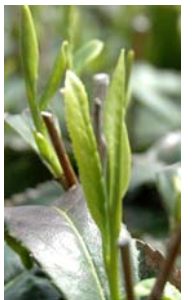


お茶新聞



2008年
新茶号

発行元
亀山市辺法寺町
811
市川大楽園製茶
お茶新聞編集部
電話 0595-85-0321
FAX0595-85-3005
<http://www.shopmie.com/dairakuen>

新茶を待って気持ちはずくわく。

発見！わくわくマイタウンに出演

久しぶりに、テレビ出演の話が来ました。悪いことじゃないからと引き受けました。取材を受けるのは大変です。スタッフの言う準備をすべてしなければなりません。今回は亀山の手もみ茶保存会のメンバーに来ていただいたりして、手もみ茶の用意をして大変でした。女性のディレクターに、奥さんに普段からの感謝の気持ちを含めて「愛してる」と言っておきたいと言われ、あわただしさのあまり「ハイハイ」と生返事をしていたら、収録も話わりに差し掛かったときに、石原良純さんがいきなり、「普段から苦労をかけている奥さんに言うことがありますよね。」とぶつてきたので何とかごまかそうとしたけど、嫁さんもある手前、あくまで拒否するのもマズイと思ったので「アイシテル」発言となりました。なんとと言う強引な演出だと、あきれましたが、視聴者には、わかりやすかったのか、観ていただいた人、印象に残っている人が多かったみたいですね。

良純さんはテレビで見るとより体がスマートでかっこよかったです。



石原良純さんと記念撮影

果菜彩(かなさい) 亀山店 オープン！

去る三月二十九日に鈴鹿農協の亀山支店の敷地内に果菜彩亀山店がオープンしました。直前まで亀山市(きらくいち)という、古い建物を利用した、直売所がありました。新しい建物を建てて、リニューアルオープンしました。始まりは、米の貯蔵倉庫の軒下で、強風にあおられながら、それぞれの農家が、会議用の机に農作物を並べただけで直売をしていました。初日からあまりの客の少なさにひとりの農家が「こんなのやってられるか！」と帰っていきました。その後も亀山支店の敷地内で場所や販売方法を変えながら続けられてきました。「お客さんのおいしかったよ」という生の声が・・・などとても聞きますが、そんなことを超えたものづくりへの執念が農家のおじさん、おばさんたちに直売を続けさせたのだと思います。これからは、亀山でも地元の農作物が手軽に手にいれるようになりますね。

なつかしい亀山市



お茶をタダで飲む。

何もかもの上上がりである。誰しもが生活防衛を考えるところでしょう。ただしガマンだけではストレスがたまりません。私からの提案はお茶好きになつたら節約も出来るということです。お茶は安く楽しめます。もっと言えば、タダで楽しめます。お茶の葉は、コーヒー豆や紅茶に比べ、決して安くはありません。しかしお茶は、あちこちでただで飲ませてくれるところがあります。高速道路のサービスエリアや市役所、はたまた、試飲販売などです。旅館やホテルの部屋でもタダです。コーヒーや紅茶はタダで飲ませてくれるところはありません。お茶業界の人で「お茶はコーヒーと違って、お金をもらって飲ますところがないからだめだ」という人がいます。お茶はもとも、もてなしの心から、無償で提供されるものだったのです。しかも健康に良い。高価なサプリメントを飲まなくても、タダのお茶で健康になれたら・・・日本が生んだ歴史ある生活防衛術じゃないでしょうか。特に亀山市は茶産地なのでタダ飲みできるところがいっぱいあります。

茶畑便り

3月には、目いっぱい、大慌てで、お茶の苗を植えました。お茶の苗を買って植えるのですが、苗の来る日が、予約してあって、苗が着てから、なるべく早く2、3日以内に植えてしまわないと、苗が傷んでしまいます。三反と今年は大い面積を改植しました。思ったより時間がかり、もっと少ない面積にすればよかったと後悔しました。あまり当てにしていなかった、ウーフの女の子が、すぐ役に立ちました、猫の手も借りたいとはこのことかと思いました。植えたのは、さえみどり、という新しい品種で、味や色は良いのですが、寒さや風に弱く、育てにくいようです。数年後には、お客様にも飲んでいただけると思いますが。ウーフの女の子はスウェーデン人のヤンナといって、十九歳と若かったのですが、畑仕事は大丈夫かなと心配でしたが、文句も言わず一生懸命働いてくれました。彼女は北欧のイメージそのままの、物静かな女の子でした。

